

サークル・同好会部門の講評

①天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクト実行委員会「交野ヶ原物語」

活動に使命感と熱意を感じ、それが紙面に現れています。「天の川の火を東京パラへ」は写真が印象的。署名を入れたレポートで親しみがあり、内容は丁寧に書かれています。ですが、長い記事なので、「天の川の火を東京パラへ」の見出しだけでは、内容を伝えられていません。何をしたのかの概要が見出しだけでも分かるような工夫を。次のページとのセットで分らせようとする狙いなら、それを知らせる仕掛けがほしいですね。「を東京パラへ」は未来形のように感じるので、「が東京パラへ」のように過去形の印象を与える方がいいです。

観月の宴が三元中継のようでおもしろいです。小さい写真は何か分からないものがあった点が残念でした。

「地図で観る交野ヶ原今昔」は力作。星の俳句コンテストのスケールの大きさに敬服します。応募者の国籍分析をしているのも、今後の活動に役に立つでしょう。最終面の「交野ヶ原物語とは」は、字が小さいのではないのでしょうか。

②関西記念病院デイケア「にこにこ通信」

大きい目の字を使っているので読みやすいです。復職後ミーティングやブレインフィットネスは、参加者の感想を入れている点が良いですね。

「豆知識」で語句の説明をしているのは親切です。ですが、説明がページをまたいで続いているのはいただけない。特に紙をめくるページにつながるのは避けましょう。わざわざ字を小さくする必要はないと思います。

スタッフ紹介は、デイケアの参加者とスタッフを結ぶ良い手段です。写真が入ると、もっと親しみがわくのではないのでしょうか。

まだ2号なので、さらに充実した通信になることを期待します。その上で、気付いたことをいくつか指摘します。

・横書きの場合1行が端から端までであると、やや長くて読みにくいです。また、横書きはレイアウトが結構難しいので、見出しをつけて、その下から文章を流していく単純なパターンになりがち。メリハリをつけるにはどのように構成するか、を考えてから編集することを勧めます。

・例えば▽2つ折りで記事を流す▽写真を記事の横に置く▽囲み記事を組み込む、など。

・見出しは「復職後ミーティング」のように、このことについて書いているというパターン、(項目見出し)と、「吊るし柿を作りました」のようにこんなことが書いてあったというパ

ターン（内容見出し）があります。新聞では見出しを読めば、記事の概要が分かるように工夫しています。そのため、項目見出しだけでは不十分で、基本は2本見出し（2つの見出しで1セット）と考えています。例えば「復職後ミーティングでパンダ作り」（2本見出しを1つにまとめたタイプ）。内容から見出しを取る努力を。

- ・写真は1番上、1番下が配置しやすいですが、中間あたりに置く変化も必要です。
- ・編集後記は短い文章ではあるが良く読まれ、読者との懸け橋にもなる重要な記事。このため、サラリと書かず、通信づくりの苦労話や裏話など、読み手が知らなかったり、「へえー」と思わせたりするものを1つ盛り込む努力をぜひ。

③スターダスト河内「スターダスト河内通信」

表紙は工夫した楽しいデザインになっています。メンバー内の通信だと思いますが、それ以外にも読んでもらうことを考えて、新郎新婦の名前かニックネームを示す言葉＝あるいは、もの＝があるとよかったです。

活発な活動と、その報告記事を載せる努力に拍手を送ります。また、情報量の多さには圧倒されます。香陽小レクチャーは良い話ですね。記事の中身から取ったさわりの見出し、中見出しを入れるとなおよかったです。

「結婚おめでとう」のページは、力を入れて作っているのがよく分かります。広いスペースなので、読む順番の番号を書いているのはアイデア。メンバーから2人へのメッセージの構成も楽しい。もう少し空白を設けた方が垢ぬけたページになります。前文が紙面に埋もれている印象を受けます。

見出しはイベントの名前がほとんどですが、香陽小レクチャーでも指摘したように、記事の中身から取ったものを入れる工夫を。長い記事が多いので、最初から最後まで読んでもらえるかどうかは読者次第。このため、見出しを見ただけで記事の概要が分かるような工夫をした方が良いでしょう。

前項の指摘に関連して、澤田隆治さんの思い出の記事こそ、思い出を見出しに取るべし。例えば、「澤田先生との出会い」でなく、「電話から始まった交流」のようにしましょう。

文章量が多いので、写真は小さいものが多いですね。小さいと表情や楽しさが伝わらず、中には何の写真か分からないものがあります。写真の大きさを考慮した上で、記事の長さを決めた方が良いでしょう。

④西牧野3丁目悠々クラブ「悠々クラブ便り」

毎月の会報発行で高齢者・一人暮らし高齢者81人に友愛訪問を兼ねて届けているという活動に敬意を払います。

地の色の種類が多いが、穏やかな色を使っているので、落ち着いた印象を受けますね。ま

た、左側の帯のようなコーナーは工夫を感じます。敬老会の出席者の多さには拍手を送りたいです（▽記事の書き出しは下の方ではなく、上の方にとすると、目の移動がスムーズになりますよ。あとは参加者の声がほしかったですね）。

紙面が予定や連絡事項中心になっているので、読み物もいくつか組み込む努力をぜひ。また、日時や電話番号といった数字は大事なので、字の大きさを落とさない方がいいですね。

⑤西牧野福寿会「西牧野福寿会活動報告」

題字の下に、この活動報告の説明と狙いを載せているのは良い配慮です。発行理念にもなっているので評価します。

限られたスペースですが写真を多めに使っているのが、見栄えがします。巻頭の記事は秋の俳句を集めていておもしろいですね。主観的な記事なので、署名を入れた方がいいのでは。この記事では俳句が重要な要素で、字を小さくする必要はありません。

「こん月この人」は、普段接する人をもっと詳しく知る良い企画です。「安松さん」のような取材対象者はフルネームにした方がいいですね。あと、筆者が一人称で書いている部分と、安松さんが一人称になっている部分が混在してしまっています。

記事の書き出しは1字空けるのが普通ですが、そうっていない記事もあります。少なくともどちらかに統一した方がいいですね。

⑥花・菜園サークル「花・菜園 花壇開放日（チラシ）」

コロナ禍の中で、花壇の開放を継続して実施していることに頭が下がる思いです。一目で分かる見出しを目指しているようで、大きな字、写真を使って目につくチラシになっています。

ポイントとして、大事な要素の順に並べておいてから構成するといいですね。そうすると、次のようになります。ご参考に――→1番大事なのは「花壇の開放」で、このことを1番上に大きな字で配置する（「お知らせ」の言葉はそれほど必要ないので、なくてもいいです）。2番目は日時、そして3番目に場所と地図（場所は「枚方二中の南西に隣接」といった文字もほしいですね）。この2つも上から2番、3番の位置に。その下に花壇の写真、次に記事とへちまたわしの写真を（もしくは花壇の写真、日時、場所の順でもいい）。最後に注意書きと「花・菜園サポーター」の文字。次回からぜひ「大事な要素の順」を意識した紙面にづくりに挑戦してみてください。

⑦枚方東部おやこ劇場「わくわくおやこ」

手作りの温かさのある機関紙を長年、制作・発行していることに拍手を送ります。また、

記事に署名が入っているので、親しみがわきますね。

表紙に「今月の内容」というインデックスを設けているのは親切です。「待ちに待った！！」は、コロナ禍ならではの記事。例会が開かれたということの見出しもぜひ欲しかったですね。ファミリーキャンプは写真をたくさん使い、吹き出しの要領で参加者の体験談を載せるなど、工夫を凝らし、楽しい紙面になっています。モノクロ印刷なのに、写真の人物の表情がよく分かりました。あとは、どこで行われ、何人が参加したかといった全体像がわかる前文的な記事が欲しかったですね。参加した子どもの声もあるとよかったです。

年企画として、「コロナと私」を掲載しているのは、このサークルの歴史の1コマとして貴重な記録となります。

注意してもらいたいのは、表紙がどす黒くなってしまう点。「六千人の命のビザ」の黒ベタの地に白字の見出しは目立ちますが、黒が強すぎて汚く感じる人がいるのではないのでしょうか。墨を落としたようなデザインも同様です。たまたま室内写真も暗く、けん玉の人の衣装も黒いので、すべてが黒い方に向かってしまっています。

⑧枚方南おやこ劇場「南おやこ」

情報量の多さと、それを発行し続ける継続性に拍手を送ります。さまざまな公演や催しの記事に感想を載せていることを評価したいです。

全学年例会の感想を載せている点が良いです。別添の感想集はボリュームがあり、執筆する協力体制が出来ていることが素晴らしい。ですが、「春・全学年例会」の字が小さく、公演名と思われる「太鼓はばびにゃんこ!？」が前文の下にあり、記事の中に入って行きにくいです。せめて前文に公演名を入れてください。「脅威のリズム」も感想集が充実しています。しかし、感想文がそれだけで掲載されていて、愛想がない作りに感じてしまいました。

1ページは催しの予定で構成されていますが、「2019年度」や「春」となっているのに秋の日時が入っているなど、疑問に感じる点があります。コロナのための延期公演ではないかと推測しますが、少し記事（前文）をつけて説明した方がよかったですね。

「トピックス 観てきました」が素っ気なくて、分かりにくかったです。「トピックス」は何を意味するのか？「観てきました」は何を観たのか？をぜひ説明してください。

前文や全体像を説明する文章のない記事が多く、延期公演のお知らせもあり、予告記事なのかそれとも報告記事なのかがすぐには分かりにくかったです。ぜひ説明文を入れるひと工夫を。

⑨街かどデイハウス藤阪愛逢「愛逢だより」

まだ第2号ですが、端正でまとまりのある機関紙になっていて、手慣れた印象を受けます。字が大きくて読みやすいですね。

トップの記事は、利用者の作品を見出し代わりに使い、四角囲みで文章を強調するなど、テクニックを使っていますね。笑えるシニア川柳、こどもの詩は読まれるだろうと思います。川柳は利用者の作だということを示す仕掛けがほしいですね。こどもの詩はなぜ福島だよりからなのか、ちょっと説明がほしいなと思います。

2、3ページはテーマを決めて利用者の声を集めていて、一体感のためにも良い企画です。執筆する人が多いことに拍手を送ります。四角囲みで読みやすく編集していますが、写真に不鮮明なものがあるのが残念です。

最終面も狭いスペースに情報がたくさん入っていて、うまい作りになっています。編集後記は短い文章だが、よく読まれる欄なので、裏話やエピソードなど読み手が「へえー」と思わせる具体的なものを1つ織り込む努力をぜひ。

(笑) ははやりだが、笑うか笑わないかは読んだ人に任せておけばいいのではないでしょうか。